第２章　当別町の地勢と災害の概要

第１節　当別町の自然条件

１　当別町の位置及び面積

町は石狩振興局管内の東北部に位置し、東端は東経１４１°４３′、西端は東経１４１°２４′、北端は北緯４３°３５′、南端は北緯４３°０９′の間にあり、町の南は江別市、西南は札幌市、西は石狩市、北は石狩市と新十津川町、東は浦臼町・月形町・新篠津村に接している。地形は南北に長く、中央に位置するところがくびれており、町域は東西２６㎞、南北４７㎞で、総面積は４２２.８６ｋ㎡である。

２　当別町の地勢及び地質

町の地形は、北部は樺戸山地に属する山岳地帯であり、南部は石狩平野の一部をなす平地になっている。最北端は暑寒別（ショカンベツ）岳に連なる察来（サックル）山（５８９．９ｍ）で、北東には神居尻（カムイシリ）山（９４６．７ｍ)、地勢根尻（チセネシリ（通称ピンネシリ））山(１，１００．３ｍ)、隈根尻（クマネシリ）山（９７１．４ｍ）が連なり、伊達山丘陵地へと南下している。北西には別狩（ペッカリ）岳（７２６．１ｍ)、別刈（ペッカリ）岳（６６６．２ｍ)、阿蘇岩山（４１８．１ｍ）が連なり、石狩段丘となって石狩川河口に達している。

これらの山岳は、古生層から成る急峻な地形を成しているが、その裾野は新第三紀の堆積岩から成っていて、山岳とは対照的にゆるやかな丘陵を形成している。山稜地帯の南に続く平坦地は、石狩低地帯の一部であり、大部分がヨシ、スゲ、ミズカシワなどの堆積物からなる低位泥炭と、ミズゴケ、ホロムイスゲ、ツルゴケなどからなる高位泥炭、さらに石狩川及び当別川の河川堆積物からなっている。

泥炭層の厚さは、低位泥炭層では２ｍ程度で高位泥炭層では５ｍを超える所もあるが、国営篠津泥炭地開発事業によって、現在は道内でも有数の穀倉地帯となっている。

河川は、一級河川の石狩川が南西端を流れており、町域を南北に縦断して一級河川の当別川が石狩川に合流している。当別川は最北端の察来山を源として東西に連なる山岳の支流を集め、当別市街を経て石狩川に合流している。南東部には国営篠津泥炭地開発事業によって開削された篠津運河があり、この地域の重要な河川の役割を果たしている。この他町内には一級河川が８川、準用河川が１川、普通河川が２６川ある。

３　当別町の気候

町の気候は、北海道全体からみると温暖であるが、平均的に冬はやや寒く、夏はやや暑い準大陸性気候である。年間の平均気温は８．０℃で、年間降水量は平均７００ｍｍ前後となっている。最多風向は西風であり、手稲連山と樺戸山地に挟まれた平地に位置する町の冬季は、石狩湾からの季節風がまともに吹き込んでくることと、石狩湾低気圧による局地的豪雪によって、道内でも有数の吹雪常習地帯で、過去１０年間の年間平均降雪量は８７２ｃｍとなっている。なお、令和３年度においては近年まれにみる大雪となり、年間１，０２１ｃｍの降雪量を記録した。

第２節　当別町の都市的条件

１　当別町の人口

町は、札幌大橋の開通などにより大都市「札幌市」とのアクセスが飛躍的に向上したため西部地域の宅地開発が進行し、平成２年から平成７年にかけて人口が著しく増加した。しかし、その後は増加傾向が緩やかになり、少子高齢化社会の到来により、全国的に人口減少社

会に突入したこともあり、町の人口は、平成１１年度の２０，８７５人をピークに減少に転じ、現在では１５，３０４人（令和５年４月１日現在）となっている。

２　当別町の土地利用

町における大部分は、市街地と、市街地を取り巻く農地、北側に広がる山間部の森林の大きく３つのゾーンに分かれている。町の都市計画区域は、１７，９６９ｈａであり、行政区域の４割を超えており、他の都市群に比べ高くなっている。

また、都市計画法による規制が都市地域だけでなく、農業地域や森林地域にもかかっていることで、自然環境の適正な保全が可能となっている。

３　当別町の交通

町の道路交通は、国道２７５号、国道３３７号（道央圏連絡道路）、道道札幌当別線及び道道岩見沢石狩線等により隣接市町村と連絡している。

町の鉄道網は、ＪＲ札沼線（学園都市線）が通り、通勤通学など町民の日常生活に利用されている。

第３節　災害の想定

１　地震災害の概況

地震災害の概況については、当別町地域防災計画（地震災害対策編）に登載する。

２　風水害の概況

北海道の気象の特性等により、町で発生する災害の状況は次のとおりである。

⑴　暴風雨災害

台風や前線等の影響による豪雨により、内水氾濫、家屋の浸水被害や河川の氾濫が発生するおそれがある。

また、近年の気象状況等の変化によって、局地的集中豪雨が多発しており、浸水被害等の都市型水害を引き起こすことがある。

⑵　融雪出水災害

融雪出水は、山地が融雪期に入る４月下旬から５月上旬にかけて最も多い。この原因については、融雪期に入り徐々に河川水位が上昇するとともに、土地を水で飽和させる。このような状態のところに山地を含む河川流域の広い範囲で積雪が急速に解けると、一挙に出水することになる。気象条件としては、第１次的には気温だが、降水量も影響を与える。

⑶　雪害

町では、１０月下旬から５月上旬までが降雪期間であり、石狩湾低気圧の影響による局地的豪雪によって、道内でも有数の吹雪常習地帯である。大雪やなだれ、吹雪による交通障害、積雪による家屋や農業施設の倒壊、埋没などによって被害をもたらす。

⑷　土砂災害

土砂災害の多くは台風や前線等による豪雨に誘発されるものが多い。町では、急傾斜地など土砂災害警戒区域に指定されている状況であり警戒が必要である。

３　災害の記録

町における過去の災害の記録は、資料１のとおりである。